

イベントカレンダー

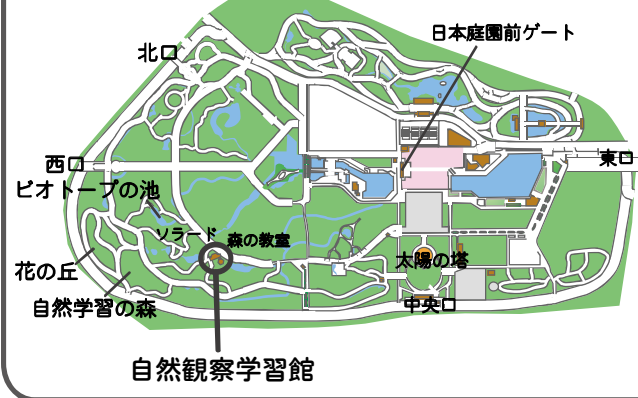
1月	9 金	季節の植物観察ガイド (8)
	11 日	越冬昆虫の観察会
	17 土	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう (2) -
	17 土	たこ作り
	24 土	★万博公園にマイ葉箱をかけよう (1)
2月	25 日	冬芽の観察会
	31 土	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう (3) -
	1 日	★冬の野鳥観察講座
	13 金	季節の植物観察ガイド (9)
	21 土	野鳥観察会 - 冬鳥をみよう (4) -
	21 土	★冬の星座観望会
	22 日	日本庭園の植物観察会

★印は要事前申込です。
水曜休館。12月27日～1月4日休館。
開館時間は午前10時～午後4時まで。

館内展示

冬の自然展	11/27(木)～平成27年2/2(月)	園内で見られる冬の植物や昆虫などを紹介
パネル展示 森再生への取り組み	11/6(木)～平成27年3/31(火)	「自立した森」再生の取り組みについて展示

アクセスマップ



～編集後記～
新しい年になりました。今年もカワセミだよりを通して万博公園の生き物をご紹介します。平成27年もよろしくおねがい致します。

カワセミだより Web版
万博公園TOP > 自然観察学習館 > 広報誌「カワセミだより」
<http://www.expo70.or.jp/cause/nature/observation/#caption4>

ふゆ 冬みつけ

ばんぱくこうえん 万博公園で **冬みつけ** ビンゴ!



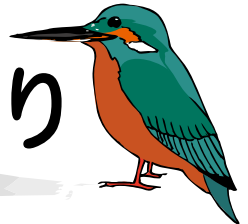
みつけた「冬」にマルをつけてビンゴを完成させよう!

ビンゴになったら自然観察学習館に持ってきてね。
1日につき先着30名様に学習館から「森のプレゼント」があるよ。

- 行事の詳細、参加の方法などは自然観察学習館までお問い合わせください。
- 学校などの団体対象の理科、生活科、総合的な学習の時間などの教育活動支援も行っております。

2015.01.01

1月号 カワセミだより



NO.106

〈発行〉自然観察学習館 大阪府吹田市千里万博公園1-1 TEL:06-6877-6923
カワセミだよりでは、園内で出会える植物・昆虫・鳥などの自然のミニ知識を紹介しています。



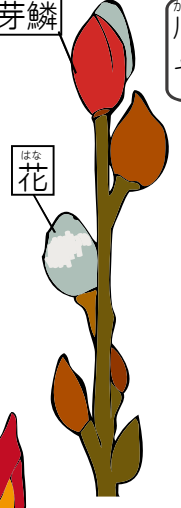
ネコヤナギ

ネコヤナギは、河川の土手など、湿り気があり水はけと日当たりの良い場所に自生するヤナギ科の落葉広葉低木です。高さは0.5～3メートルです。園内では、万葉の里や観察の森の川沿いで見られます。

芽鱗と花を見に行こう

芽鱗とは新しい芽(冬芽)を被う鱗状のものです。今の時期、ネコヤナギは芽鱗を落とし、花芽が顔を出します。花芽と一緒に芽鱗も観察してみましょう。

ネコヤナギの芽鱗は1枚で帽子状。芽を冬の間、守ってくれるよ。



川辺に生えることからカワヤナギとも呼ばれるよ。

銀白色のネコのしっぽ

ネコヤナギは、ネコのしっぽに花が似ていることから、この名前がつけました。花穂は太めの円筒状で絹のようななめらかな美しい毛で覆われています。今の時期から4月頃にかけて花が咲きます。

ネコヤナギは雌雄異株。雄株と雌株に分かれているよ。雄株につく雄花の方が雌株につく雌花より花穂が大きいよ。

冬芽については、今月号のもっと自然を見てね。



成虫で冬を越す昆虫 その①

現在学習館で展示中！！

ツチイナゴ (バッタ目バッタ科)

今回は、成虫で冬を越す2種類のバッタ類を紹介するよ。まず第1弾はツチイナゴ。体は土のような色で、眼の下にある涙模様が特徴的。冬の園内にも潜んでいるはずだけど、見つけれられるかな？

季節に合わせて衣替え

ツチイナゴの体の色は、枯れた草の色にそっくり。冬の草地に紛れると見つけ出すのは困難です。ちなみに幼虫は夏頃に現れますが、たいいてい緑色をしています。草の生い茂る季節には、緑色のほうが自立たなくて敵に見つかりにくいのかもかもしれません。みごとな衣替えです。

ツチイナゴ

眼(複眼)の下に涙のような模様

体の色は全体的に茶色



- ・体長約5~7cm。
- ・林に隣接した草地に多い。
- ・クズ(マメ科)などの葉を食べる。

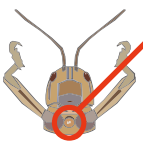
田んぼでは見られない？

「イナゴ」というと田んぼでよく見かけるイメージがあるかと思いますが、でもそれは主にコバネイナゴで、ツチイナゴは森林沿いの草地を好みます。同じイナゴの仲間でも、環境の好みは種類によって違うようです。

園内だと学習館裏や観察の森辺りに潜んでいるかも！

豆知識 イナゴののどちんこ

イナゴ類には左右の前脚の間に通称「のどちんこ」と呼ばれる突起があります。見ると思わず「のどちんこ」と呼びたくなる形をしています。



成虫で冬を越す昆虫 その②

学習館で展示中だよ。

クビキリギス (バッタ目キリギリス科)

成虫で冬越しシリーズ、第2弾はクビキリギス。スマートな体型のカッコいい昆虫だけど、名前の意味は「首切りのキリギリス」。この怖い名前の秘密は、赤くて鋭い大あごにあるんだ。

首が切れても離さない！？

クビキリギスのトレードマークの赤い大あご(右下の図参照)。このあごはとても力強く、一度噛みつくとなかなか離してくれません。この時に思いっきりひっぱると、噛みついたまま首が千切れてしまいます。首が切れても離さないキリギリス。まさに首切りギスです。

クビキリギス

長い触角はキリギリス類の特徴。

体の色は主に緑や茶色。稀に赤色のものもいる。



- ・体長約5.0~5.7cm。
- ・林に隣接した草地等に住む。
- ・雑食性だが、植物の葉や種子を好む傾向にある。飼育下では鯉節なども食べる。

顔、アツ

噛んでる時は引っ張ったらあかんで。

赤色の立派な大あご

頭の先は鋭く尖っている。



じつは少数派！？

じつは成虫で冬を越すバッタ類は少数派です。多くのものは夏から秋に産卵し、冬は卵で過ごします。一方、今回紹介した2種は秋に成虫が現れるものの、産卵は翌春に行われます。これら2種がなぜ多数派と違う時期に繁殖するようになったのか、興味深い問題です。



もっと自然

このコーナーでは自然を楽しむための色々な工夫や方法をお伝えしています。

冬芽って知ってる？

冬芽とは、夏の終わり頃から秋に形成され、越冬して春に葉や花になる芽のことをいいます。枝先の方にある小さい冬芽の中には葉やつぼみが折りたたまれて入っています。冬芽を観察すると、冬の寒さや病害虫から身を守る為、植物は様々な工夫をしている事がわかります。ネコヤナギのようにかたい皮のジャンパーのような芽鱗でおおわれている冬芽。モクレンの冬芽は密に毛の生えた芽鱗で毛皮のコートのようです。ウメは着物をたくさん着込んだように多数の芽鱗をつけています。



ウメ



モクレン